

「構想シート」を用いた道徳の「授業構想」の試み

Class designing for moral education with planning sheets

射 場 智 子

Tomoko IBA

要 旨

学校における道徳教育は、「全教育活動を通じて行われる」とされる。まず、教育課程の中でもっとも大きな比重を占める各教科の学習を通じた人間形成の意義を確認したのち、道徳の授業構想のための理論的基盤について段階的に学び、ここから各自構想を練るという授業を行ってきた。構想シートを用いた授業構想の試みについて、これまでの改善点も含め、報告と考察を行う。生徒指導との関わりについても触れる。

1. はじめに

基本的にすべての教科を担当教師が担当する初等教育においても、また教科担当制を採る中等教育においてはなお一層、各教科の学習がいかに関係形成に直結したものであるのかについての理解は、第一義的に重要である。この理論的基盤なくして、「学校の全教育活動において行われる」道徳教育の「要」としての週1時間の道徳の授業構想への理解を深めることは期待できない。「学ぶ」ということそれ自体が、いかに人間にとって「生きる」と結びついているのか、このことは、人間形成における「学習」の意味を問うことに他ならず、したがって、学校教育そのものの基盤への理解となるからである。(この点については、拙稿「知識論と道徳教育——デューイとポパーの知識論から——」、石村秀登・末次弘幸編著『道徳教育の理論と実践』大学教育出版 pp.45-59を参照。後述の授業構想のための理論的基盤に関する「知識の暫定性・可謬性」「経験から学ぶことと思考」「総合学習との関わり」「なぜ絵本なのか？」についての記述も含まれる。)

2. 「知識」と「道徳」との関わり

〔ワークシート〕全教科の学習と道徳との関わりを概観しよう！

まず、全教育活動の中で、もっとも大きな比重を占める「各教科」との関わりを見ることによって、自身が担当する教科を教える意味を改めて認識しはじめた後に、学校における道徳教育の要として位置づけられる道徳の授業構想へと進める。この学習活動は、初回の「はじめに：あなたの教科目は道徳教育と関連がありますか？」の問いに答えるという今後の学習のための準備作業に続くものである。全体のイントロとしてのこの問いは、(a) Yes---How? / No---Why? の形で（はい、と答えた方は、どのように関わるのか、また、いいえと答えた方は、なぜそう思うのか）、各自文章化して答えた後、この記述をもとに、今度は、読み上げでなく、話しかける形で少人数のグループで相互の「聴き合い」を経たのち、もう一度同じ問いに答えて書く。さらに、(b) これまでの全学校生活を通じて「あれは私にとって『道徳教育』だった！」エピソードを一つ書き、同じグループで同様に聴き合いを行う。(a) (b) については各自に記述シート、および聴き合いシートを配布し、次回にこの初回の作業をもとに、現時点での各自の「道徳教育」についての理解を400字詰め原稿用紙1枚にまとめて提出する。（手書きの機会が少なくなっている現状に鑑み、ここではあえて原稿用紙を用いる。「文字・活字文化推進法」(2005)「子どもの読書推進に関する法律」(2001)が必要とされる状況である。後に扱う「読み語り」にも関わり、この二法律を資料として配布している。）

このような第1回の準備作業に続くものとして、『知識』と『道徳』との関わり」というテーマでの学習活動を行う。〔ワークシート〕(全教科の学習と道徳との関わりを概観しよう！)を配布し、各教科・領域、さらに総合的な学習・特別活動および総則についても、学習指導要領の読み込みを行うことで、「全教育活動を通じた道徳教育」の意味理解を拡げたいと考えている。各教科・領域ごとに担当を決めて、道徳との関わりについて、当の教科・領域に特徴的なキーワードを3-5選択し、さらに他教科との関わりについても考察して全員参加での発表を行う。他教科・領域担当者の発表に際しては、予習として、各自選んだキーワードや他教科との関わりについてのメモを配布の「聴くシート」に記入して臨むこととする。さらに総合・特別活動・総則についても拡げる。理解促進のため、中間回あたりに教育課程の項目についての小テストを組んでいる。このワークのまとめとしてのミニ・レポート提出前に合わせて、この確認を行うことで、道徳教育と生徒指導との異同・関わりをも含めて、「全教育活動」の具体的なイメージを持ちやすくし、理解を深めてもらうためである。

各教科の学習との関わりが、必ずしも学習指導要領によって充分読み取れるわけではないけれども、15回のうちで余り時間的余裕もないため概観のための手掛かりとするには、わかりや

すい。「学校教育全体を通じて行う」ということの読みとりには有効と思われる。問いかけに対して、まず個々人で考えて文章化する。それをもとに「聴き合い」を行う方法、あるいは、初回の問いかけに続く、「道徳と各教科との関わり概観」という試みは、2007年度より引き続き行ってきたが、ワークシートの形式等は改善を重ねてきている。この学習活動については、いかに各教科相互に関わりがあり、すべての教科が人間形成に関わっているのかという視点自体が、これまでの理解・考え方からは新鮮で意外なものだとの声が、殊に中等教育免許希望者から毎回多く出される。自身の人間形成にとっての「学ぶ」ことの意味を改めて考えることこそが、担当教科を「教える」ことの意味を考える第一歩となる。初等教育に比して、教科担当という分業体制の中等教育においてはなお一層深めていかねばならない問題であって、しかもこのテーマこそが、もっとも基本的な問題だと確信する。

この全15回の「道徳教育」に関する講義は、『「知ること／考えること」・『活動すること』と道徳』との授業テーマのもと、後半の授業構想に向けて、前半に原理的理解を段階的に進める形で計画している。前半のうち、1回は授業者の作成した年表を用いて、「明治以降の道徳教育の歴史概観」のテーマでの講義を行い、さらに、多角的な理念に触れるための参考に「子どもの権利宣言／平和・人権・民主主義のための教育・宣言」(国連・ユネスコ)の資料配布とともに簡単な紹介を入れている。戦後の「特設道徳の時間」「特別の教科 道徳」までの大まかな流れ等も含んで、最終回に記述形式の小テストを行うため、途中に、何度か復習の機会を設けるよう努めている。この最終回においては、「理論としてのまとめ」として「誤りから学ぶ」というテーマで、理論的基盤で扱ったポパーの可謬主義からさらに「討論」について改めてまとめを行う。また、生活実践の側面とも関わって、「総合学習との関わりにおいて」として、「茶の湯・茶道文化」について、ユニバーサルな生活文化としての紹介を少し行う。これらの部分を除けば、主として授業構想のための理論的基盤と後半の授業構想の部分から成り立っている。

- ・[ワークシート] 全教科の学習と道徳との関わりを概観しよう！
- ・[教科の学習と道徳との関わり] (学習の進め方とミニ・レポートについて)

3. 子どもの作文の読み取りから授業構想準備へ

目の前に具体的な子どもの姿がない状況で、具体的な道徳の授業構想を練り上げるのは、実践的意味からも理論的意味から言っても難しい。教育内容が予め明確に決められている諸教科とは異なって、どんな教材・学習活動が、当の子どもたちにとって今、もっとも相応しいかということを考えるのは、大変に難しいと言わざるをえない。その点から言えば、教材が選定されているのは、助けられることだと言える。ただ、時として、家庭的背景等をはじめとして必

ずしも目の前のすべての子どもたちに、提示できるものとは限らない場合も生ずる。あるいは、補助的教材の掘り起こしや開発が望まれる場合等もありうる。どのような教材あるいは学習活動が、目の前の今の子どもたちに必要であるのか、また、その子どもたちにとって「本時のめあて」達成には、どのような教材あるいは学習活動が必要であるのかを見極める眼が、教師には要求される。その意味で、教材開発のヒントに、ブックトークによる絵本の紹介を、2006年度から引き続き行ってきた。2009年度からは、「構想シート」を用いた「授業構想」の試みを行っている。改善を継続的に進め、現在の形でのシートとワークの進め方に近づいたのは2014年度からである。

まず、子どもたちの問題状況の焦点を絞り、授業構想を練る試みが第一段階である。子どもたちの問題状況を知るために、子どもたち自身の切実な作文の読み取りを行ってきた。これまで、全員で、二つの作文の読み取りを行ってきたが、昨年度より新たに、この読み取りの作業ののち、6例の異なる作文を各自読み取ったあと、「焦点を当てる子どもたちの問題状況」を設定することから、授業構想を練る、というステップを加えた。まず全員で、二つの作文の読み取りを行う作業から進める。一つは、何となく学校に行きたくなくなり、一年間不登校状態であった中学生が、家族・教師・友達の助けを得ながら体育大会を契機として、積極的な学校生活を踏み出したという作文である。もう一つは、アメリカからの転校生が、言葉の壁に阻まれながらも、周囲の友達に励まされて学校生活を送るという作文であるが、日本語がうまく通じずに、いじめに遭う弟をかばうという場面も含んでいる。

この二例の読み取りについても、各自の読み取り・書く作業、そして、聴き合いを経て、全員による共有ののち、「書かれていないことの読み取り」について、授業者からの説明を行い、さらに読み深め、各自の考察をミニ・レポートとしてまとめてもらう。(この作文では、登校再開の直前、電話のあった仲のよい友達と遊ぶ約束を「してしまう」。たとえば、「学校を休んでるのに遊んでる」ではなく、「遊んでるからそろそろ学校に行けるのでは？」との温かい見守りが後押しする。教師は、いつその子が登校して来てもクラスの子どもたちが受け入れることができるよう行なっている日々の実践を通して、そのような構えが保護者・地域へと広がるための「つなぎ」の役割を果たすことができる。生徒指導との関わりでもある。)

次に、新たに加えた6例の異なる作文を各自読み、構想準備シートに従って授業のデザインを試みる。各自の構想案を練ったあと、少人数で案の聴き合いを行い、案の共有を図ることで、多様な捉え方に触れているようである。このステップは、初めての構想を通して、いかに難しいのかを実感してもらい、どのような点を考慮していけばいいのかに、まず気付いてもらうのがねらいである。その意味でも、この段階での「聴き合い」の効果は大きいと言える。各人が苦勞して試行錯誤したあと故、相互のアイデアの交換はいい意味での刺激となっているように

見受けられる。(子どもの作文は、小6から中3までの6例。本当は登校したい不登校児、教師の一言で登校できるようになった子、仲間はずれに加担したくないのに自分に矛先が向くのを恐れて言い出せない子、中学校入学後の不安、高校受験前のクラスの雰囲気の変化への不安等である。)

- ・子どもの作文(2例/6例)(日本作文の会子ども委員会編『ココロの絵本』大月書店2002から)
- ・「構想シートⅠ」 [資料の読み取りと構想準備] / (資料の読み取り・構想準備) 「聴き合いシート」

4. 教材開発のヒント：ブックトークによる絵本紹介／授業構想の試み

2006年度から、初めは単に教材の開発のヒントに、ということでブックトークによる絵本の紹介を続けてきた。構想において用いてもよいし、各自で別に教材を探してきてもよいし、学習活動を組み込む形でもよい、というスタイルにしていた。しかし、ここ数年は、ブックトークで紹介した中から最低1冊を選んでもらう形にしている。ただし、その用い方は、導入でも、メインの教材としても、あるいは最後にテーマを拡げるために触れても、といったように自由な形としている。というのも、全員が同じ教材をすべて把握した上で、他の学習者の用い方、解釈の仕方、展開、方法等を相互に学び合えるからである。

なぜ、絵本を扱うかについては、最近の情報機器に囲まれた日常の中で、直接のコミュニケーションによる安らぎを必要としているのは、幼い子どもだけではないと思われるからである。疾風怒涛の時期と言われる思春期の子どもたちこそ、信頼するおとなの肉声の語りを聴き、絵を読み解く豊かな時間を必要としていると思われる。扱う絵本は、子どもからおとなまでを対象とする、比較的文字の多いもの、および写真絵本である。いわゆるお話よりも、「事実」を知ることにより主眼を置いている。短い同じ時間、同じ教室で「間接経験」の提供としての「読み語り」である。具体的な「道徳的状況」の間接経験である。「道徳的状況」とは、デューイに従えば、「具体的な行為に先立って判断や選択が要求される」状況だからである (*Reconstruction in Philosophy*, 1920)。教材として、いかに用いるかは受講生自身に委ねられている。

- ・「教材のヒントとしての絵本リスト」 (ブックトーク)
- ・「聴くシート」 (受け取ったメッセージ・教材としてのアイデア・自由なコメント)
- ・「構想シートⅡ」 [授業構想の試み] (提出用)

5. 個人案の練り上げと「聴き合い」・発表

先に見たように、授業構想の第一段階として、焦点を当てる子どもたちの問題状況を設定したのちに授業構想を練る、いわば構想の練習を行った。シート提出によるフィードバック（各自のシートへの記述あるいは／および口頭でのやり取り）を経て、次には、ブックトークによる教材リストの中から1冊を選んで、構想を試みる。個人案を練り上げた段階でできる限り数人での「聴き合い」を行い、また、授業者とのやり取りを経て、改訂を行い、全体への発表を行う。「聴き合い」に際しては、発表者には、困っている点・迷っている点・メンバーに尋ねたい事柄を、聴く側には、よかった点に加え、何か一つアイデア提供といった欄を設けた「聴き合いシート」を配布している。これは、聴き合いや発表を、現時点での経過報告と捉えて検討会のようなものにするすることで、全員の最終案へ向けた改訂を促すことをねらいとしているためである。

- [構想シートⅢ] [授業構想の試み]（個人案 改訂版）
- [聴き合いシート]
- [個人案 概要]（授業タイトル/key question/焦点を当てる子どもたちの問題/主な学習活動）

6. 授業構想におけるポイントと「全体地図」

授業構想に入る前に、理論的基盤の講義を行うと同時に、冒頭で示した拙稿をテキストとして理解を深めてもらう。実際に構想に入った段階で、改めてテキスト読み込みをホームワークとし疑問点・質問等をカード記入の形で提出し、こちらからのフィードバックを全体に対して行う。実際の構想に役立ててもらうためである。授業の各回ごとにレジュメを配布するが、改めて、構想に取り掛かった段階で授業構想のポイントを示すのが効果的と感じる。

授業構想におけるポイント

「現状の子ども」を「よりよく」

（出発点）子どもたちの問題状況 → 授業目標（そのための教材・学習活動）

- 子どもたちの どのような問題状況 に対して
 - なぜ、この授業が必要で、
 - この教材のどのような有効性によって、（and/or）どのような学習活動（*）を通して、
*本音を出し合い、話し合いの筋道を自ら見出していけるような議論の場の設定等
 - 何を目指すのか？（授業目標）（大きな願い） → 本時の「めあて」
- めあて達成の確認の手立て（=子ども自身のまとめ／授業者自身の授業評価→次の実践へ）

二つの道筋 子どもの日常の問題 → 大きな問題 へと広げていく
 大きなテーマの提示 → 子どもの日常の問題 へと絞り込む

- ・身近な問題とグローバルな問題とのつながりを示す
- ・日常の実践から変えていく この点は個別——全体への援助としての学級経営（クラスづくり）につながる生徒指導とも関わる。個別の問題をクラス全体の問題（「私たちの問題」）として教師が設定し直して提起することにより、子どもたち自身の問題解決を促すことができるという共通性を認めることができる。

授業構想が進んだ段階で、最後の課題として「実践的ホームワーク」を課す。日頃のゴミ出しに用いる自治体指定の色別分別ゴミ袋について。「目のご不自由な方はどのようになさっているのだろうか？」店頭での購入時・日常の使用について考えてみることを促す。各自の実践・調査が授業構想に生かされることを願って提起する。この試みは、理論的基盤で扱った「経験から学ぶことの意味」の捉え直しでもあり、同時に学習活動として「体験学習」を授業計画に織り込む際の示唆となることを期待してのことである。最終レポートには、聴き合い・発表・授業者とのやり取り等、初めの案から最終案に至るプロセスも含めて、各自文章化し、最終案の詳細な文章化を課している。各自の案を温めて、いつか実際に授業ができるように願って、改訂を進めてほしいと伝えている。

全員の案が揃ったところで、すべて（各自）の授業タイトルカードを黒板上で移動して、①自分自身に関わること ②他の人との関わり ③社会との関わり ④自然との関わり の順に、すべて同一のクラスに向けた授業と仮定して（テーマにのみ焦点づけて）、全授業の順番を、全員参加により決めていく。すべての順番を決めるためには、前後の人同士の詳しい話し合いが必要となる。結果として④自然との関わりをもつ①自分自身に関わることへと、これらのテーマは「循環」していることに気づくことによって、「全体地図」ができ上がる。これについての各自の考察、全体の中での各自の授業の位置づけについての考察が最後のレポートとなる。

（以下に、上記の各項目末に記したシートを示す。）

元 九州大学非常勤講師
西南学院大学非常勤講師

道徳教育の研究② 【教員の学習と道徳との関わり】 (学習の進め方とミニレポートについて) 2018.9.27日(水)

氏名 _____

1. 趣意

2. 意図

3. ワークシート

4. ミニレポート

5. 感想

6. その他

7. 参考

8. 疑問

9. その他

10. その他

11. その他

12. その他

13. その他

14. その他

15. その他

16. その他

17. その他

18. その他

19. その他

20. その他

21. その他

22. その他

23. その他

24. その他

25. その他

26. その他

27. その他

28. その他

29. その他

30. その他

31. その他

32. その他

33. その他

34. その他

35. その他

36. その他

37. その他

38. その他

39. その他

40. その他

41. その他

42. その他

43. その他

44. その他

45. その他

46. その他

47. その他

48. その他

49. その他

50. その他

51. その他

52. その他

53. その他

54. その他

55. その他

56. その他

57. その他

58. その他

59. その他

60. その他

61. その他

62. その他

63. その他

64. その他

65. その他

66. その他

67. その他

68. その他

69. その他

70. その他

71. その他

72. その他

73. その他

74. その他

75. その他

76. その他

77. その他

78. その他

79. その他

80. その他

81. その他

82. その他

83. その他

84. その他

85. その他

86. その他

87. その他

88. その他

89. その他

90. その他

91. その他

92. その他

93. その他

94. その他

95. その他

96. その他

97. その他

98. その他

99. その他

100. その他

道徳教育の研究② 【資料読み取りと 構想準備】 2018.11.3日(水)

氏名 _____

1. (特) 資料読み取りと構想準備(1)-(4)をまとめて、自分の授業実践の観念を文書化

2. (氏名)

3. (氏名)

4. (氏名)

5. (氏名)

6. (氏名)

7. (氏名)

8. (氏名)

9. (氏名)

10. (氏名)

11. (氏名)

12. (氏名)

13. (氏名)

14. (氏名)

15. (氏名)

16. (氏名)

17. (氏名)

18. (氏名)

19. (氏名)

20. (氏名)

21. (氏名)

22. (氏名)

23. (氏名)

24. (氏名)

25. (氏名)

26. (氏名)

27. (氏名)

28. (氏名)

29. (氏名)

30. (氏名)

31. (氏名)

32. (氏名)

33. (氏名)

34. (氏名)

35. (氏名)

36. (氏名)

37. (氏名)

38. (氏名)

39. (氏名)

40. (氏名)

41. (氏名)

42. (氏名)

43. (氏名)

44. (氏名)

45. (氏名)

46. (氏名)

47. (氏名)

48. (氏名)

49. (氏名)

50. (氏名)

51. (氏名)

52. (氏名)

53. (氏名)

54. (氏名)

55. (氏名)

56. (氏名)

57. (氏名)

58. (氏名)

59. (氏名)

60. (氏名)

61. (氏名)

62. (氏名)

63. (氏名)

64. (氏名)

65. (氏名)

66. (氏名)

67. (氏名)

68. (氏名)

69. (氏名)

70. (氏名)

71. (氏名)

72. (氏名)

73. (氏名)

74. (氏名)

75. (氏名)

76. (氏名)

77. (氏名)

78. (氏名)

79. (氏名)

80. (氏名)

81. (氏名)

82. (氏名)

83. (氏名)

84. (氏名)

85. (氏名)

86. (氏名)

87. (氏名)

88. (氏名)

89. (氏名)

90. (氏名)

91. (氏名)

92. (氏名)

93. (氏名)

94. (氏名)

95. (氏名)

96. (氏名)

97. (氏名)

98. (氏名)

99. (氏名)

100. (氏名)

[構想シート I][資料の読み取りと構想準備]/(資料の読み取り・構想準備)[聴き合いシート]

「教材のヒントとしての絵本リスト」(ブックトーク)

「構想シートII」[授業構想の試み]

「聴くシート」(受け取ったメッセージ・教材としてのアイデア・自由なコメント)

(提出用)

道徳教育の研究② (授業構想の試み) 個人案 2018.11.11
 (授業の内容を端的に示すもの、子どもたちが喜びたいような形に)

授業テーマ: _____

① 自分自身に関すること/他 他の人との関わり/他国・社会との関わり/他者・他国などの関わり
 ・あなた自身 (あるいは学生としてのあなた) が知りたい (考えたい) 問題・テーマ
 ・現代の学生に必要と思われる (考えたい) 問題
 ・現代の国際理解において、学生にとって必要と思われる問題 など (小・中・高・高校生)

② Key Question (この授業で生徒へ投げかける問い・授業内容を端的に示す生徒たちへの問いかけ)

1. 資料の読み取り (あなたが受け取ったメッセージ / あなた自身の考えや・視点 / テーマを記げるアイデア)
 ・この題材へのあなたの考えや・視点
 ここから、 テーマを記げるアイデア

2. 資料の活用 (授業組み立ての中で、どのように用いるか) ・導入のきっかけとして
 ・中心教材として
 ・最後にテーマを記げるための発表 etc.

③ ④のメインの教材・活動を入れる場合
 (そのための教材 (学習活動・体験・場の設定 など) → あなた自身の教材研究について)

3. テーマ設定 (この授業を行なう必要性・重要性)
 ① なぜ、そのテーマを設定するのか?
 ② 生徒にとっての課題は何か? (知識等) / あなた自身の生活理解: 生徒の現状・現状・背景など

4. 授業展開 (あなたはこの授業で何を準備するのか? → 主体的な学び)

5. 道徳内容 (大枠でのプラン) / (学習指導要領 道徳 領域 内容項目 [] [] [])

【テーマ・教材研究のヒント】 → (教材研究 経緯) 【授業計画】 【評価方法】 【評価項目】
 ・「テーマ・プランニングなんでも」もどき (あるいは) 構想シート
 ・「さくらんぼのまほう」 → 「まともな心」 → 「まともな心」 → 「まともな心」 → 「まともな心」
 ・「はいはいのまほう」 → 「まともな心」 → 「まともな心」 → 「まともな心」 → 「まともな心」
 ・「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」
 ・「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」
 (授業計画)
 ・「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」
 ・「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」
 ・「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」
 ・「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」 → 「お母さんが100人いたら」

道徳教育の研究② 授業構想の試み 2018.11.11
 授業構想の試み方と「聴くシート」について (詳細は授業の中で説明)

1. 各自の授業構想 (「授業構想シート」11項目) 提出
 ・各自の授業テーマ (自分の問い / 子ども達が喜びたいようなテーマの工夫)

2. 各自の授業構想
 ① 授業テーマ (カード記入) ... 選んだ教材・活動ごとに提出
 ② 構想シート (問いの書き上げに活用して下さい)
 ・各自の授業テーマを基に、チャートづくり等による書き上げ
 (構想を基にしたアイデアを出し、修正して下さい)
 ・修正 / 訂正を経て「聴くシート」へ

3. 発表 検討会: 「聴くシート」に向けて、意見を出し合い、さらによいものに

4. 全体の振り返り (全学交流での振り返り) ... すべての授業は同一テーマでの授業と感想
 ・全体の授業の振り返り (全学交流)
 ・テーマ (①→②→③) 全体の授業の中で各自授業の振り返り

提出物と「聴くシート」(※)
 (提出物) ① 授業構想シート11項目(全)提出 ※ (個人案)→訂正 (聴くシート)に提出
 ② 授業テーマカード・構想シート

(聴くシート)に含める内容
 I. ① (個人案)から「聴くシート」への書き上げのプロセスをまとめる
 ② 教材研究 (教材の選択・見直し / 授業準備のための授業準備等) の詳しい内容
 ③ (聴くシート) についての文章化 (シートの内容項目に沿って) ... 夏14頁 10/11付 提出

II. ①・テーマ全体の振り返り・感想づけ (全学交流) についての発表と 全体の中で各自授業の振り返り
 ・授業準備全体を振り返って、最後に
 ② もう一度「知識と道徳教育」(プリント資料)を読んで、この授業全体を通して学んだこと、考えたこと等を自由に(11.11.11 1000字以内)にまとめて下さい ... 夏14頁 10/11付 提出

~~~~~ 組みながら、高し、詳細に書き上げて下さい ~~~~~

道徳教育の研究② (授業構想) 個人案 2018.11.11  
 選んだ教材研究② (教材研究 教材のヒント → 構想シートより)

授業テーマ: \_\_\_\_\_

① 自分自身に関すること/他 他の人との関わり/他国・社会との関わり/他者・他国などの関わり  
 ・あなた自身 (学生としてのあなた) が知りたい (考えたい) 問題・テーマ  
 ・現代の学生に必要と思われる (必要と思われる) 問題 など (小・中・高・高校生)

② Key Question (この授業で生徒へ投げかける問い・授業内容を端的に示す生徒たちへの問いかけ)

1. 資料の読み取り (あなたが受け取ったメッセージ / あなた自身の考えや・視点 / テーマを記げるアイデア)  
 ・この題材へのあなたの考えや・視点  
 ここから、 テーマを記げるアイデア

2. 資料の活用 (授業組み立ての中で、どのように用いるか)  
 (導入のきっかけとして / 中心教材として / 最後にテーマを記げるための発表 etc.)

③ ④のメインの教材・活動を入れる場合  
 (そのための教材 (学習活動・体験・場の設定 など) → あなた自身の教材研究について)

3. テーマ設定 (この授業を行なう必要性・重要性)  
 ① なぜ、そのテーマを設定するのか?  
 ② 生徒にとっての課題は何か? (知識等) / あなた自身の生活理解: 生徒の現状・現状・背景など

4. 授業展開 (あなたはこの授業を通して何を準備するのか? → 主体的な学び)

(※ 事例の「めあて」(具体的な授業目標として取り込む) → 子ども達の生活・授業準備につながる

5. 道徳内容 (大枠でのプラン) (学習指導要領 道徳 領域 内容項目 [ ] [ ] [ ] )

「構想シートIII」[授業構想の試み] (個人案 改訂版)

【聴き合いシート】

教育の研究(2) 授業研究 個人案 (聴き合いシート) No. \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 2018.11

発表1 \_\_\_\_\_  
 (受けとったメッセージと 授業研究 個人案の概略)

1) 概 ( ) ( ) 1) 困っている点・悩んでいる点 メンバーに聞きたい点 等

発表2 \_\_\_\_\_  
 (受けとったメッセージと 授業研究 個人案の概略)

2) (氏名) ( ) ( ) 2) よかったところ 何か一つアイデア提供

発表3 \_\_\_\_\_  
 (受けとったメッセージと 授業研究 個人案の概略)

3) (氏名) ( ) ( ) 3) \_\_\_\_\_

全体を通じて気づいた点・聴き合いを通じて出てきたアイデア等)

道徳教育の研究(2) 授業研究 個人案 (聴き合いシート) (グループ) No. \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 2018.11

発表1 \_\_\_\_\_  
 (受けとったメッセージと 授業研究 個人案の概略)

1) 概 ( ) ( ) 1) 困っている点・悩んでいる点 メンバーに聞きたい点 等

発表2 \_\_\_\_\_  
 ( ) ( ) 2) よかったところ 何か一つアイデア提供

発表3 \_\_\_\_\_  
 ( ) ( ) 3) \_\_\_\_\_

| 実践研究の研究(2) (授業研究) 個人案 (聴)                           | 2018.12 月 | 実践研究の研究(2) (授業研究) 個人案 (聴)                           | 2018.12 |
|-----------------------------------------------------|-----------|-----------------------------------------------------|---------|
| すべての子どもにとっての「学び」となるように。 児童者のあなたの意図がもっともよく伝わりやすい構図に。 |           | すべての子どもにとっての「学び」となるように。 児童者のあなたの意図がもっともよく伝わりやすい構図に。 |         |
| (題材名) (授業タイトル) (key question)                       |           | (目標を達成する子どもたちの顔容) (定まる学習活動)                         |         |
| 【チャージ】                                              |           | 【チャージ】                                              |         |
| 【区とまで読む】                                            |           | 【区とまで読む】                                            |         |
| 【ツバシ】                                               |           | 【ツバシ】                                               |         |
| 【ツバシ】                                               |           | 【ツバシ】                                               |         |
| 【児童の子ども】                                            |           | 【児童の子ども】                                            |         |
| 【まっちゃん】                                             |           | 【まっちゃん】                                             |         |
| 【まっちゃん】                                             |           | 【まっちゃん】                                             |         |
| 【区画図】                                               |           | 【区画図】                                               |         |
| 【クイズレー】                                             |           | 【クイズレー】                                             |         |
| 【結果】                                                |           | 【結果】                                                |         |
| 【あなたが学ぶ】                                            |           | 【あなたが学ぶ】                                            |         |
| 【おめが】                                               |           | 【おめが】                                               |         |
| 【個人への計】                                             |           | 【個人への計】                                             |         |
| 全体地図                                                |           | 全体地図                                                |         |

【個人案 概要】 (授業タイトル/key question/焦点を当てる子どもたちの問題/主な学習活動)